

# 原子力発電所「近接」立地県における原子力防災に関する一考察

## (2) 滋賀県における原子力リスクコミュニケーション研修

Nuclear Disaster Reduction Activities in a Prefecture bordered on Nuclear Power Station located Area

(2) Risk Communication Training on Shiga Prefecture

\* 柏 貴子<sup>1</sup>, 八木 絵香<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 滋賀県, <sup>2</sup> 大阪大学

滋賀県では、原子力発電所「近接（非）」立地県であることの特徴を踏まえた原子力災害に係るリスクコミュニケーション研修を実施している。本発表では、その成果および今後の方向性について報告を行う。

**キーワード：**原子力防災, 原子力発電所「近接」立地県, リスクコミュニケーション

### 1. 緒言

滋賀県は、前報のとおり、特に「近接（非）」立地県であることの特徴を踏まえた原子力防災にかかる研修を開催している。具体的には、原子力防災業務に従事するために必要な知識と技術の習得を目的に、原子力災害の概要、放射線の基礎、モニタリング資機材の取扱い方法、原子力災害時における住民とのリスクコミュニケーションなどの研修を開催している。本発表では、リスクコミュニケーションに係る研修の成果および今後の方向性について報告を行う。

### 2. 研修方法

滋賀県がおかれる状況を鑑みた場合、滋賀県内で避難措置がとられるケースに加えて、立地県で避難措置がとられているにも係わらず、滋賀県内では防護措置が必要とされないケースも想定する必要がある。後者においては、特に行政職員と住民とのコミュニケーションが重要な要素となることから、リスクコミュニケーション研修においては、滋賀県内の行政職員が身近に感じられるケースを想定するなどの工夫を行っている。

いずれのケースも、研修参加者(表1)を5名～7名のグループに分け、課題を出し、課題について1時間～1時間半グループディスカッションをした後、班ごとに5分程度の発表を行ってもらった。

#### (1) 平成25年度滋賀県リスクコミュニケーション研修会

ア 課題：放射性物質の汚染が疑われる木材チップが河川敷に搬入・放置されている。このことについて、緊急住民説明会を実施することになった。冒頭で説明する資料(5分程度)を作成しなさい。

イ 発表：敷設されている木材チップの現状、健康・環境への影響、今後の対応について発表が行われた。

#### (2) 平成27年度滋賀県リスクコミュニケーション研修会

ア 課題：原子力災害が発生し、避難所の開設準備をしていたところ、「避難者の中に10,000cpmの汚染が検出されているケースがあると聞いた。本当に大丈夫なのか心配を感じる。」という問い合わせがあり、緊急住民説明会を実施することになった。冒頭で説明する資料(5分程度)を作成しなさい。

イ 発表：事故の状況、放射線の基礎知識、スクリーニング方法、汚染の影響、避難所周辺の状況(放射線量率、土壌などの放射能濃度)などについて発表が行われた。

### 3. 成果

原子力災害は、他の自然災害と異なり、災害対応や住民対応を経験していない人が多く、実際にどのような知識・意識・技術を持つべきかイメージしにくい。研修を行うことにより、原子力災害が発生した際、滋賀県はどのような状況になるのかを具体的にイメージすることができ、必要な知識・意識・技術を把握することが出来たと考えられる。

表1 研修参加者

		平成25年度	平成27年度
UPZ*内	市町職員	1人	3人
	消防職員職員	1人	8人
UPZ*外	市町職員	3人	6人
	消防職員職員	1人	5人
警察職員		0人	6人
県職員		2人	6人
その他		4人	0人
合計		12人	34人

※UPZ: 緊急時防護措置を準備する区域

\* Takako KASHIWA<sup>1</sup> Ekou YAGI<sup>2</sup> <sup>1</sup>Shiga Prefecture, <sup>2</sup>Osaka University.